

# 平成28年教育委員会第5回定例会会議録

開会日時 平成28年 5月 9日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 11時05分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 天宮 久嘉  
同職務代理 日高 芳一  
委員 杉浦 容子  
委員 塚本 亨  
委員 大里 豊子  
教育長 塩澤 雄一

## 議場出席委員

・教育次長	坂井 保義	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	杉立 敏也	・学校施設課長	青木 克史
・学校施設整備担当課長	長南 幸紀	・学務課長	鈴木 雄祐
・指導室長	中川 久亨	・統括指導主事	加藤 憲司
・統括指導主事	塩尻 浩	・地域教育課長	山崎 淳
・生涯学習課長	小曾根 豊	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

## 書 記

・企画係長 富澤 章文

開会宣言 委員長 天宮 久嘉 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 天宮 久嘉 委員 日高 芳一 委員 塩澤 雄一  
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○委員長 おはようございます。

出席委員は定足数に達しておりますので、ただいまから平成28年教育委員会第5回定例会を開会いたします。

本日の会議録の署名は、私に加え、日高委員と塩澤教育長にお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

本日は、報告事項等が4件、その他が3件ございます。

それでは、まず報告事項等1「平成28年度 指定校変更状況について」説明をよろしく願います。

学務課長。

○学務課長 それでは、報告事項1「平成28年度 指定校変更状況について」のご説明を申し上げます。

表面が新小学1年生、裏面が新中学1年生ということで、いずれも平成28年4月7日現在の数値になってございます。

まず、表面の小学1年生のほうからのご説明ですけれども、この表の4月7日現在の、一番下の部分をごらんいただきたいと思います。就学人数につきましては3,437人。対前年比で42人の増ということになります。そのうち通学区域校に就学いたしました率は81.8%ということで、前年と比べますと4ポイント増加してございます。逆に指定校変更をした方ということですが、こちらは18.2%ということになってまいります。それから抽選校につきましては、今年度は7校ということをごさいます、1番の本田小学校、4番の梅田小学校、5番の渋江小学校、19番の末広小学校、31番の中之台小学校、40番の中青戸小学校、50番の上小松小学校ということになってございます。前年度が4校でございましたので、今回は3校の増ということで変更になってございます。

続きまして、裏面をおめぐりいただきたいと思います。中学1年生の指定校の変更状況でございす。同じく4月7日現在の列の下の方でございすけれども、まず、就学人数は2,865人ということをごさいます、こちらは対前年度比で17人の減となっております。それから通学区域校に就学した率は78.1%。こちらは前年と比べますと6.9ポイントの増ということになってございます。したがって、指定校変更の率につきましては21.9%ということになってございます。同じように抽選校でございすが、こちらは3校でございまして、1番の本田中学校、2番の金町中学校、19番の青戸中学校ということになってございます。こちらは昨年度は5校でございましたので、2校の減ということになってございます。

数字のほうは以上でございすが、最後に就学手続の変更ということで、28年度新入学者が行ったわけですけれども、こちらは小・中ともに通学区域内の学校に就学する率が高まっ

ざいます。先ほどご説明させていただきましたとおり、小学校では前年度比4%、中学校のほうで6.9%、通学区域に通う児童・生徒がふえたということをごさいますして、ここ最近の増減率が大体1%かいても2%ぐらいふえるところだったのですけれども、こちらの数字を比べますとやはり増加しているということで、これは手続変更の影響と考えてごさいます。こういった形で、今回、児童・生徒個別の事情を考慮しつつ、地域と学校の結びつきを強めていくということで制度変更をしたわけですけれども、そちらの意図に沿った流れになってきたのかなというところが今回の感想でごさいます。制度変更の初年度ということもごさいますので、今後も各校の状況ですとか、区民の皆さんの声を聞きながら、制度の円滑な運用を努めてまいりたいと考えてごさいます。

説明は以上でごさいます。

**○委員長** ありがとうございます。

それでは、ただいまの説明につきまして何かご意見はごさいますでしょうか。

大里委員。

**○大里委員** 学校選択制は保護者にとりましても大変関心の大きな事柄だと思います。今回、制度が変わったことで、保護者側から何か問い合わせ等があったのかどうか。混乱なくスムーズに進んだのかどうか教えていただけますか。

それから、小学校で18.2%、中学校で21.9%のお子さんが指定校ではないところに入學しているというのは、数値としてはこれは多いと捉えるところなのか、妥当な数値と見るところなのか教えていただきたいのと、この指定校を変更したお子さんたちの理由と伺いますか、内訳、選択制のときに兄弟の上のお子さんが入ったところに下のお子さんもというケースは多いかと思うのですが、それ以外の理由ではどんな理由がどれくらいの割合であったのかというところは把握されているでしょうか。

**○委員長** 学務課長。

**○学務課長** まず、手続上のトラブル等なのですけれども、大きなトラブルはごさいませんでした。今回、10月1日に就學通知書を発行いたしまして、変更されない方はそのままという形でした。細かいところで言いますと、やはりその手続の期間ということで、今までは最初の希望表を出していたところから始まっていたのですけれども、就學通知が最初に出ているものすから、希望があったのだけれども出し忘れていたという方が、そんなに多くはなかったのですけれども何件かはありました。ただ状況に応じて受け付けられるところは受け付けてという形をとってごさいます。

それから、今回の変更の率が多いか少ないかということなのですけれども。数字上で言いますと、先ほども申し上げたとおり、統計上は今までから比べると指定校以外の学校に行っている子どもというのは、率からすると少なくなっているということになっております。これから

の動向がどうなるかというところはあるのですけれども、手続が変更してくると、あらかじめ指定校の変更ということで積極的にまたやってくる方はいるのかもしれませんが。

最後に、変更の理由なのですけれども。委員ご指摘のとおり、まず小学校でいうと、兄弟の在籍です。こちらを理由にしている方が一番多く、おおよそですが4割程度という形です。その後は、一番多い理由としては部活等ということになります。小学校でいうと例えば学校の公開での見学をしたため、それから「わくチャレ」が1年生からあるという理由もその中には含まれているということです。中学校でいいますと、やはり部活です。それから同じように学校公開を見て、勉強等ですとか、小学校の友人が多く進学しているというような理由が見受けられるかなというところでございます。

以上でございます。

**○大里委員** わかりました。ありがとうございます。様々な理由が考慮されるということですね。

**○委員長** 学務課長。

**○学務課長** 今回の手続変更の一番大きなところは、個別の事情、身体的事情ですとか、その他教育的配慮というものを優先させていこうと。その後に部活ですとかそれから校風等という形で優先順位をつけさせていただきました。中には、いわゆる優先順位として低い部活ですとか、校風ですとかということ、B抽選といわれますけれども、そちらのほうの理由で抽選にかかった方もいらっしゃるということはあるんですが、やはり理由として出してくるのはそこが多かったというところでございます。

**○委員長** 大里委員。

**○大里委員** 今までの選択制では、特に中学生は部活動の強いところに行きたかったということは、多分、ありますよね。

**○委員長** 学務課長。

**○学務課長** ご指摘のとおりだと思います。思いとしてはそういったことはあろうかと思いますが、やはり優先的な理由というのはそれなりに皆さんご納得いただけるような基準、項目になってございますので、そちらの方が優先されるのは、いたし方ないというようなことで、これは推測ですけれども大きな苦情ですとか、そういうようなものはございませんでした。

**○大里委員** 皆さん納得されて決まったということですね。よくわかりました。ありがとうございます。

**○委員長** ほかに。塚本委員。

**○塚本委員** ただいまの大里委員、あるいは学務課長から私が伺いたかった部分はある程度お答えいただきました。私が1点懸念しますのはやはり地域の格差のことなのです。特に小学校におきますと、地域の偏在性。まちの発展というか、再開発が、今、各エリアにございますね。

それに向けて現時点での小規模校、大規模校という差が出てございます。差ということはどこでも見受けませんが、今後、これは一つの課題として解消していただきたいのが1点。それと制度変更になって、周知期間が十分にあったのだろうか。大里委員が、今、ご質問されたように、大きな混乱はなくて安堵はしました。

ただ、やはりその中で幾つかプライオリティーはおつけになっているのでしょうかけれども、抽選に至ったところはその辺の影響も実はあったのかなと。中学になりますと、ある程度、49、50の小学校から24という中学校に進学がありますから、そういうものは学区におさまったようですので、心配した部分が心配のない結果だったので、今後、それもまたよく検証しながら次年度につなげていただきたいと思います。お答えは結構です。

**○委員長** ありがとうございます。

杉浦委員。

**○杉浦委員** 小学校の抽選校は4校。昨年と比較してプラス3校と言われましたが、その3校の学校名、中学校が5校からマイナス2校で、3校が抽選校になりましたとご報告にございました。そのマイナス2校の学校名。地域的なものを知りたいものですので、教えていただけますか。

**○委員長** 学務課長。

**○学務課長** まず小学校ですけれども、ふえたところが昨年と比べますと、まず本田小学校、それから梅田小学校。今、校数で申し上げますので、学校自体はちょっと変わっているのです。

昨年度の抽選校をまず申し上げます。まず、昨年度が金町小学校、中之台小学校、綾南小学校、上小松小学校の4校。それから今年度が先ほど申し上げた本田、梅田、渋江、末広、中之台、中青戸、上小松ということでございます。ですので、連続で抽選になったのが中之台小学校と上小松小学校。中学校のほうが昨年が本田中、金町中、大道中、青戸中、東金町中。今年度が本田中、金町中、青戸中ということで、こちらは重なっているところが3校と、抜けたところが大道中学校と東金町中学校ということになります。

**○委員長** 杉浦委員。

**○杉浦委員** ありがとうございます。先ほど塚本委員のほうからもお話がございましたが、やはり地域的なもの、再開発や住宅の建設が影響していると思いました。この制度の意図に従って円滑に進むようにと思います。

中学校について、昨年よりも少なくなったということですが、区内の中学校が全体的に落ち着いてきていると感じます。教師のスタンダード、生徒の学習スタイルを、各学校、推進していただき、ご指導のおかげと評価いたします。

また、通学区の就学率ですが、小学校、中学校ともにプラスになっているということは、

地域の力がきちんと認められ、地域の方たちが学校をしっかり応援しているということも影響していると思います。

○委員長 日高委員。

○日高委員 ありがとうございます。私、子どもたちがどの学校を選ぼうかと、どの学校に行きたいのかと考えることはすごくいいことだと思うのです。ですから、わくチャレが充実しているからという、子どもの生の発想、感想ですね。また、部活が盛んで、しかも友人関係がそこにいくとなると、当然、子どもたちは引き寄せられる。それよりももっと大事なことは、私は、「葛飾教育の日」の影響があると思っているのです。一度申し上げたことがありますけれども、本区の取組みが地域に、保護者に、そして新しく入る新1年生、未就学児、こうした子どもたちにも親御さんに対しても啓発をしているという葛飾教育の日の影響がすごく大きいのだと思います。学校評価にもなっているのです。どこかで考察してみたいかと思いますが。

いい学校に行かせたいという保護者の思いがありますから、大事にしていきたいデータになるのではと。今年度から始めて、今後、継続していく中でぜひ分析をしていただきたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

では、杉浦委員。

○杉浦委員 中学校の就学人数ですが、もちろん地域でいたし方ないとは思いますが。例えば葛美中学校ですと173名、新宿中学校167名、金町中学校が165名、また反対に綾瀬中学校60名、中川中学校64名、高砂中学校68名。この辺が、子どもの教育や人間関係に差ができればいいと思います。今後、この状態で良いものなのか、ある面で少し考えていかなければいけない部分もあるのではないかと思ったりもしますが、そのことについて課長さんはどのようにお考えになっていらっしゃいますか、お聞きしたいと思います。

○委員長 学務課長。

○学務課長 もちろん学校の規模等によりまして児童・生徒数の多寡自体はあるということがあります。今回、おおよそこちらの就学人数ということで、例年と傾向としては同じなわけですが、まず一つは教育の内容ということですが、当然、公立の学校ですので、どこに行っても大丈夫なのだというのがまず一つ、大きなベースとしてはあるということです。また私も実際に現場に行き、小規模校も大規模校もお話を聞いてみると、それぞれメリット、デメリット両方ともあるという話は聞いております。公立の学校としてのベースは押さえつつ、大規模校、小規模校という特徴を押さえた教育をしていくということで、我々も指導室と学校と連携しながら考えていかなければいけないとは考えてございます。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 わかりました。ただ、綾瀬中学校9年間を例にしますと、西小菅小学校も小規模

校です。ずっと小規模校の中での人間関係で教育を受けるという課題があるわけです。少し気になりましたので、意見として言わせていただきました。

**○委員長** ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、報告事項等1を終了させていただきます。

続きまして、報告事項等2「平成27年度 葛飾学力伸び伸びプラン最終報告及び平成28年度 葛飾学力伸び伸びプランについて」説明をよろしくお願いいたします。

指導室長、お願いします。

**○指導室長** それでは、「平成27年度 葛飾学力伸び伸びプラン最終報告及び平成28年度 葛飾学力伸び伸びプランについて」ご説明させていただきます。

2月の教育委員会で、平成27年度学力伸び伸びプラン最終報告としてご報告させていただきましたが、その際は予定としていたものがありましたので、全てが完了したものを改めてお示しをさせていただくものでございます。

それでは平成27年度 葛飾学力伸び伸びプランの取組み結果についてご説明させていただきます。年度末の執行率でございますが、3月末現在、予算額に対する執行率は全体で約95%となりました。各校計画どおりに執行を進めることができました。詳細は小学校・中学校全体の表をごらんください。

続きまして、裏面をごらんください。平成27年度に引き続き実施計画書・予算申請書を各学校から提出していただき、精査をしてまいりました。今年度の各校のプランは資料にまとめさせていただいております。各学校から提出していただいた計画を見ますと、小学校では「校内研究会への講師招聘」が最も多く47校ございました。授業中に個別の支援を行い、それとともに学習規律の定着に取り組む学校が46校、放課後や長期休業中に補習に取り組み、個々の授業に合わせた振り返り学習、つまずきの早期対処などに取り組む学校が42校、漢検・数検に向けた学習のための検定指導員を配置している学校が34校と多くございました。ほかにはホワイトボードにより児童の発表を工夫する学校が12校ございました。

中学校です。放課後や長期休業中の学習会を実施するための指導員・指導補助員を配置する学校が18校と最も多く、英検や漢検・数検のための学習指導員を配置する学校が13校となっております。加えて、校内研究会の講師を招聘する学校が12校と多くなっております。ほかにはホワイトボードにより生徒の発表を工夫する学校が11校、Hyper-QUによる生徒理解により、学級づくりから学力向上を図る学校が11校ございました。自習用の教材プリントやノートをつくり、家庭学習への取組みを進めようとする学校が9校ありました。年度末には本事業の具体的な取組み成果等も含めた報告書を各校から提出していただきます。よい取組みにつきましては区内で共有化し、次年度は全校でも実施を検討してまいります。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまの学力伸び伸びプランにつきまして、何か委員の方からございますか。

杉浦委員。

○杉浦委員 ご説明ありがとうございました。まず、小学校の予算で、計画額、執行額それから計画額【組替後】とございます。この報償費と消耗品費の組替後の金額なのですが、これはどういう理由で組み替えなさったのか。それから中学校についても、報償費から消耗品費への組み替えの理由を教えてくださいたいと思います。

伸び伸びプランは3年目に入り、8,000万という予算がつき、今まで1億6,000万使っています。今年度には2億4,000万ということになりますので、そろそろ伸び伸びプランの結果という、その辺は生かしていかなければいけないのかとの思いもあります。まず、組替後の予算を教えてくださいたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 報償費、計画額、それから執行額を比べていただきますと、やはり執行額が意外と少なくなっています。この部分については、年度当初、講師の先生をお呼びしたい、その報償費につきましては、その基準に合わせまして、大学教授、校長経験者というようなランク別になってございます。その予定していた講師が、急遽変更になったところと、それからもしくは年度当初に予定ができず、途中から入れようと思ったのだけれども、結局、その講師が入ることができなかった。その部分を例えば教育委員会指導主事のほうに講師をお願いするというようなパターンで、1番多くは校内研究の講師、それを予定していた人材をお呼びすることができなかったというものが1番大きいものでございます。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 やむを得ない事情はもちろんあると思います。外部講師をお願いすれば、報償費です。年度の初めに予定を組むわけですから、大変だと思います。ある面では妥当だと思っています。

ただ、この中で、依頼した先生の都合がつかずにそのまま6か月ほど放置し、教員、子どもたちのために使える予算を執行できなかったことは、残念でした。すぐ他に手を打つことはできなかったのでしょうか。

○委員長 ほかに、よろしいでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 1点だけよろしいですか。資料1で、最終報告をご提出いただいておりますが、その中で、評価の欄にそれぞれ各校が報告をしながら評価を与えています。それぞれの設定された伸び伸びプランに対しての自己評価というか、相対評価。左のほうに評価の指標が小学校も設定されています。その中で若干のばらつきが見受けられます。A・B混在した学校、ある

いはCが多く見られる学校、その辺を大いに参考にしながら、むしろ明日から開催されます学校経営プレゼンテーションのほうでも資料を供しながら各校長先生に伺っていきたいと思います。指導室としては、その評価をどのように捉えたらいいか。若干の乖離現象があるものですから。

○委員長 指導室長。

○指導室長 おわかりいただけるかと思うのですが、学校によってBとCしかつけていないとか、Aのほうが比較的多いというようなところがあります。校長によっての評価の仕方というのが、本当に満足のいくものとしてAをつけているのか、若干甘くつけているのか。何をもってAとするか、Bとするか、Cとするかというのは、基準というのをお伝えしてございます。例えば、Aにつきましては達成度90%以上、Bについては9割未満、5割以上、Cについてはそれ未満というようなことにしてあるのですけれども、その適正な評価、本当に全てが満足したAなのかどうかというのは、正直、校長先生のご判断次第によるものかなとは思っております。ですから、BとC、中にはすごく厳しくつけていただいて、これだけやっているけれどもCをつけているというような学校も中にはございます。

○委員長 塚本委員。

○塚本委員 ありがとうございます。私もそういう思いで拝見させていただきましたし、Aが多くて、結局、校長先生の人柄、学校経営能力がすごくすぐれているという学校も散見されました。そういう意味では学校経営プレゼンテーション、これからの校長先生の意気込みを、教育委員の立場からこれを参考にしながら質疑させていただき、活用させていただきます。ありがとうございます。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 まず、伸び伸びプランの推進の目的は、自分の学校の学力の実態に即して策定した学力向上プランを支援し、児童・生徒の基礎学力の定着と向上を図る。これが目的だったと思います。今回の予算を見せていただきまして、本当に多かったのは、校内研究、講師招聘47校。校内研究会の講師招聘19校というように、教師の授業力の向上のために使っています。もちろん子どもたちのためではありますが、伸び伸びプランの予算がなかったらどうなのかという思いがしました。なるべく子どもたちのための資料とか、子どもたちのための学校支援員に使っていききたいという思いがあります。

人件費は、確かに支援員の配置ということで適切に行っている学校については、評価します。

半田小学校は、低学力層、学力低下層、中間層、その児童の学力向上のためにいろいろプランを立てている。南奥戸小学校は、夏休み作文教室を実施したと記載があります。私はすばらしいと思いました。作文に力を入れて、「全国小学校夏のチャレンジ全国小学生『未来』をつくるコンクール」では、学校として敢闘賞をいただいたと記載があります。1・2年生の算数は

ティーム・ティーチングを入れて、そういったところにも伸び伸びプランの予算をしっかりと使い、基礎学力定着に努力している。

飯塚小学校はベーシック・ドリルを中心として外国語活動に力を入れている。国語は今回は低下しましたが、算数はアップしているという状況の説明があります。

花の木小学校は、2年生にT. T、ティーム・ティーチングを導入することによって2年生が学習がわかるようになってきたという結果が出ております。

西亀有小学校はユニバーサルデザインの授業ということで、放課後1時間、カメ算タイムというのを行って、基礎学力向上に頑張っています。

亀有中学校は、新採が4人いるということで、教師の授業スタンダードを徹底していると、この中に文言がありました。

常盤中学校は、朝学を8時25分から8時35分まで行い、教員が自作でプリントを作成しているとのこと。また、始業前の取組みのために遅刻者がいないと、これは大変すばらしい努力の結果と思いました。

全体的に、ホワイトボードの購入が多かったと思います。東京都のICT教育の研究校でした本田小学校は、区内の学校の中でICT機器も多く使用してきていると思います。その結果、具体的にどういうところがどうなのかという課題を分析して、検証をされて、情報提供していただきたいと思います。他の学校が結構ホワイトボードを使ってアクティブラーニング授業等を行っているということは、評価できると思います。

子どもたちのために各学校工夫されていると思います。頑張っているということは評価いたします。

以上です。

**○委員長** 指導室長。

**○指導室長** 今、委員ご指摘の中に、研修会関係の講師のお話がありました。指導室として考えていますのは、やはりいい授業をどういうふうに教員一人一人が身につけなければいけないのか。これは若い教員だけではなく、中堅・ベテランも含めて、やはりベテラン教員の中にも昔からのやり方に固執してしまって、新たな方法をあまり学ばない教員というのも実はございます。

ですので、できるだけ新たな手法とか、子どもたち一人一人のためにできるだけ学力を伸ばせるようないい指導法を身につけた教員を1人でも多くということで、研究会への講師の報償費をできる限りつけているような状況でございます。その部分では、各校の学んだことをできるだけ、例えば葛小教研、葛中研などで他校の先生との交流の中、もしくは幼保小中連携、中学校グループ等の中で違った学校の先生との交流会で、「うちの学校ではこんなことをやっています」というようなことも情報交換し、その学校で学んだことをできるだけ他校にも伝えて

もらいたい。それによって1人でも多くの先生がさまざまな手法を身につけて子どもたちを指導してもらいたいという思いがございますので、ぜひその計画に関してはご理解いただければと思っております。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 それはよくわかります。この予算を見ますと1校ごとに行っているわけですが、近隣校でまとまって、一つの予算で執行できることもあると思います。三年目に入って予算の使い方はもう少し工夫できないかと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

日高委員、お願いします。

○日高委員 結果オーライではないのです。私は葛飾区が学校に対してこれだけの支援をしているというすばらしさをやはり現場に感じてもらいたいのです。校長の裁量は幾らでもきくのです。人づくりで、しかも子どもの学力を推進するという。このことを校長の力で幾らでも発揮できるような仕組みはできている。このことを、やはり現場が認識する必要があると思います。

確かに評価しています。評価には、これまでも申し上げたように偏りがある。要するに甘く見る人と、物すごく厳しく見る人、大ざっぱに見る人もいる。この点については指導したほうがいいと思います。

この伸び伸びプラン。プランというのは細分化されなかったらプランではないのです。ですから、こういう実践的な計画書を一つでくくって評価することはありえない。だから、この12万円を残したのはどうしてなのか聞かないと役割は果たせません。

それから、この報告書は公開しているのでしょうか。各学校はこれを見て学べると思います。校長だけに持たせたらどうですか。本当にすばらしい学校はあるのです。具体的に指標で数値化している、数値目標でやっている学校もあるのです。数値目標が一番意味があるのです。そういう意味でも、各学校がやっていることを共有できると、これからプランを組まれて実践計画に基づいて、まさにプラン・ドゥ・シー・アクションを起こして、またやり直してもう1度考え直すという、こういうスタンダードな発想に戻っての推進ができるのではないかと思います。今、2年目ですから、この成果をもっと生かしていただきたいと。校長たちに与えられた、有効的に使える予算でありますので、「ここはこんなふうに使われている学校があります、すばらしいですよ」と、参考にさせていただきたい取組みを、校長会においても情報提供ができれば各学校の啓発につながるのではないかと、感じます。

以上です。ありがとうございます。

○委員長 指導室長。

○指導室長 ご指摘ありがとうございます。この最終報告改訂版ではございませんけれども、途中のものといいますか、それはこのような冊子にして各学校の定例校長会でも配付してございます。その際には、ぜひ他校の部分をどういうふうに計画し、どのように施行しているのか、ぜひ参考にして次年度に生かしてくださいということもお伝えしております。ただ、委員おっしゃっていただきましたけれども、「この学校のここがいい」というような、具体的な内容についてはまだまだお示ししてございませんので、今後はそういうことがお伝えできるように励みたいと思います。

○日高委員 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○委員長 ほかによろしいでしょうか。

大里委員、お願いします。

○大里委員 皆さんからお話があったとおりと私も思います。この伸び伸びプランの最終報告と、28年度の計画を見まして、漢検・数検・英検、それから国語、算数・数学、理科に力を入れている学校が多い中で、やはり社会の問題解決の授業とか、読書・作文・朝学習に力を入れている学校に、私も目が留まりました。学校同士で情報を交換してそれぞれ工夫していただけたらと思います。この報告と計画を踏まえまして、明日からのプレゼンテーションに私も教育委員として臨みたいと思います。

○委員長 よろしいでしょうか。この伸び伸びプランにつきましては、本当に評価は校長先生の人柄がしのばれるというか、採点の仕方が様々ですね。明日からは、学校経営プレゼンテーションがあります。27年度の成果というのは必ず触れられると思いますので、興味を持って聞きたいと思います。

それでは、続きまして報告事項等の3です。「平成28年度 教育研究指定校の決定について」説明をよろしく申し上げます。

指導室長。

○指導室長 それでは「平成28年度 教育研究指定校の決定について」ご報告させていただきます。

平成28年度教育研究指定校が資料のとおり決定いたしました。教育研究指定校につきましては、今年度研究2年次を迎える学校につきましては、資料のとおり10校となっております。また新規に9校・1園が教育研究指定校に加わりました。

2枚目をごらんください。グループ研究は2グループ、特別支援教育推進校は資料のとおり44校・2園となっております。特にグループ研究の(2)ですけれども、こちらのほうは昨年度石川県に視察したメンバーが、その翌年である今年度、グループを組んで、昨年度石川県で視察した内容を自分の授業の中で実践しというような内容でグループ研を組んでございます。

また資料番号の4から10につきましては、東京都の指定による研究校でございます。資料の

とおり、言語能力向上推進校は小学校 2 校。伝統・文化教育推進校は小学校 5 校、中学校 1 校。オリンピック・パラリンピック教育重点校は中学校 3 校。コーディネーショントレーニング実践校は中学校 1 校・幼稚園 1 園。アクティブライフ研究実践校は小学校 1 校。スーパーアクティブスクールは中学校 1 校。道徳教育推進拠点校は小学校 1 校・中学校 1 校となっております。かつしか教育プラン 2014 の推進に向けて、各学校・幼稚園に対しては、組織的・計画的な研究が進められるよう指導・助言をしてみたいと思っております。

説明は以上です。よろしくお願ひいたします。

**○委員長** ありがとうございます。ただいまの研究指定校につきましては、何か委員の方からございますか。

日高委員、お願いします。

**○日高委員** 継続校もありますけれども、新規の指定校もたくさん出ています。またグループを初め、東京都の指定をたくさん学校の学校が受けていますので、これは誇れることだと思いますから、ぜひ成果を期待したいと思います。ありがとうございます。

**○委員長** ほかの委員、よろしいでしょうか。

塚本委員。

**○塚本委員** 日高委員がおっしゃっていただいたとおり、むしろ先ほど来出てございますが、学校経営プレゼンテーションの際にも、この指定をお受けになった新校長の意気込みはぜひ伺ってみたいと思っております。各委員よろしくお願ひしたいと思います。

**○委員長** よろしいでしょうか。

それでは、報告事項等の 4「平成 28 年度 葛飾区進学重点教室及び寺子屋かつしかについて」の説明をよろしくお願ひいたします。

指導室長。

**○指導室長** 「平成 28 年度 葛飾区進学重点教室及び寺子屋かつしかについて」ご説明させていただきます。

東京都教育委員会と、葛飾区教育委員会の連携事業のうち、5 月 28 日から始まる、葛飾区進学重点教室について説明いたします。

「目的」といたしましては、区立中学校に通う中学校 3 年生の中で、都立葛飾野高等学校を初め、都立高等学校への進学を考えている生徒を対象に、都立葛飾野高等学校において発展的な内容の学習を行うことで、受講した生徒の希望する高校への進学を支援するものです。

定員の 40 名の生徒に対しまして、都立高校入試に対応できるよう、国語、社会、数学、理科、英語の 5 教科について葛飾野高等学校の教員が指導をいたします。開催回数は年間 12 回の土曜日と、夏季休業中に 5 回開催いたします。昨年度の都立高等学校に進学した受講者は 39 名。そのうち葛飾野高等学校への進学者数は 11 名となっております。平成 26 年度の 3 名から 8 名増

となっております。5月上旬に全中学校へ募集をかけ、応募中学校から1名以上を基本とし、抽選にて40名の受講生を選出いたします。葛飾野高校は平成25年度から特別進学クラスをつくり、平成27年度は初めての卒業生が大きく進学実績を伸ばしております。大学一般入試合格者数は平成26年度の33名から120名となっているというお話でございました。葛飾野高等学校の入試倍率についても徐々に高くなっております。

続きまして、5月9日から実施する「寺子屋かつしか」につきましてです。

全校に募集をかけ、東京理科大学の学生が中学校の自学自習を支援しております。平成27年度は「新小岩学び交流館」を加え3会場で実施し、70名が受講いたしました。現在、各中学校に募集をかけ、開室に向けて準備を進めております。追加募集につきましても、随時行っていきます。自学自習の機会を充実させ、確かな学力の定着を図ってまいります。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

**○委員長** ありがとうございます。ただいまの説明の2点について何かご質問等ございますでしょうか。

よろしいですか。杉浦委員。

**○杉浦委員** ご説明ありがとうございます。葛飾らしい施策、事業だと思っております。強いて言えば、葛飾野高校にもう少し進学しなければ、ご指導いただいた先生方に申しわけないという思いと感謝の気持ちでいっぱいです。生徒の方も、ほとんど欠席もなく、前向きにしっかりと進学のために勉強され、そして高校に進学されたということは、本当に教育委員会として誇れる事業だと思っております。

「寺子屋かつしか」も、東京理科大学の学生の方に指導員として、中学生に自学自習の場を提供していただき、学習支援をしていただくことは、子どもたちにとっても確かな学力の定着と将来のために大変有益な、すばらしい事業だと思っておりますので、これからは是非、継続していただきたいと思っております。ただし、人数に限りがあり、各学校1人ではなく、多くの生徒さんが参加できるとよいと思っております。参加希望者は多いと思っておりますが、応募はどのくらいあるものなのですか。それを40名に切っているのですか。教えていただきたいと思っております。

**○委員長** 指導室長。

**○指導室長** 進学重点教室のほうは、各校1名程度ということで、倍率について、済みません、今年度の詳しい数値について、私のほうでまだまとめておりませんので、後ほどお伝えさせていただきます。

寺子屋かつしかにつきましては、各会場40名なのですがけれども、基本的には定員をちょっと超えるくらいの数でございました。昨年度の実績でお話しをさせていただくと四十数名の応募ということなので、昨年度については全て受け入れております。

**○委員長** 杉浦委員。

○杉浦委員 寺子屋かつしかの場合は、3カ所で120名ということで考えていいのですね。「進学重点教室」は、各中学校で1名といえは1名しか推薦してこないのだと思うのです。2名にふやせないものなのかと、そういう努力はできないものなのかとっていますが、その辺はどのようにお考えなのでしょうか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 この部分につきましては、実は葛飾野高校さんに多大なる負担をかけているという部分がございます。確かにもっと人数を多くすると、多くの生徒が集まってくるのかもしれませんが、ただ、こちらの意図としては、できる限りそこに毎回出席し、葛飾野高校に行ってくれるものというように思いで募集をかけてございますので、本来でしたら都立入試をする子はみんなおいでと言えはもっと数は集まると思うのですけれども、さすがにそれでは葛飾野高校さんのほうにご迷惑をおかけしてしまいますので。その部分のところをできるだけ生徒、家庭にご理解をいただいた上で応募をしていただいているというような状況でございます。

○委員長 杉浦委員。

○杉浦委員 何かもったいないと思っております。伸び伸びプランもここに少し予算を投じてもいいのではないかと思うぐらいの事業なのですが。わかりました。失礼しました。

○委員長 日高委員。

○日高委員 こうやって葛飾野高校が子どもたちを受け入れていただけるのは、本当にありがたいです。本来は自分の学校で、中学でしっかり力をつけて、そして都立学校に送り出すというのが筋ですよ。そういう中でも、緊密な連携のもとにこうやって機能するというのはすごいと思います。

ちょっと話が変わりますけれども、昨日のエンジョイスポーツ 2016 総合開会式でも共栄学園が来て、そして伴奏をしていただいたり、すばらしいダンスを披露いただきました。ああいうふうに教育の連携ができています葛飾区、すばらしいと思います。私立ですからね。そして成人式のときには、水元総合高校が来て、さらに葛飾野高校がこういう教室を開く、理科大とまた科学教室というすばらしい連携ができています。もう1校ぐらい都立高校もありますから、そこも連携ができていくと、もっと広がった新たな創造ができるかなと思います。

何うと、とてもお世話になっているというお話でしたけれども、ぜひこういうところは感謝したいと思います。そして現場も、やはり感謝する必要がありますね。非常にいい連携ができていて、今後、より充実させていく。経年するとマンネリ化しますから、ですから、ぜひこれをマンネリ化させないように、また協力の手を加えていただいて、いい連携ができればありがたいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長 ほかによろしいでしょうか。

大里委員。

○大里委員 私もこの進学重点教室と寺子屋かつしかの申し込み状況と、将来的に定員や場所を増やす予定があるかどうか、気になるころでした。

保護者にとっても大変ありがたい取組みだと思います。私の周りにも、この寺子屋かつしかに中学1年のお子さんが申し込んだという方がいらっしゃいました。親としましては、こういうすばらしい取組みを行政が行っているので、「ここに行きなさいよ」「やだよ」というのではなくて、子どもが「ぜひ行きたい」というふうにするのが親の役目というか、家庭の担う部分なのだというふうに改めて思いました。

○委員長 塚本委員

○塚本委員 今、くしくも大里委員がおっしゃったのですが、そういう雰囲気づくりがまちを挙げて、教育委員会を挙げてやはりやるのが先ほど杉浦委員がご心配された部分。というのは、先ほど指導室長のほうからございました、6番の葛飾野高の進路の結果が直近で出ました。大学の一般入試合格者が120名、対前年比の33名から急増しているわけです。

そういった部分で、全体としてのムードづくりを上げていくことによって、保護者の方たちにこういった制度をもっと周知して、利用して、うれしい悲鳴があれば現場でも考えざるを得ないし、また葛飾野高校さんとも綿密な話し合いができれば、いい意味での悲鳴は歓迎しなければいけないかなと思いますので。感想だけ述べさせていただきます。

○委員長 ありがとうございます。

大里委員がさっき言っていた「行け」「やだよ」。まさに先日うちの子に東京理科大学の科学教室に「行けよ」と言ったら「やだよ」と言われてしまったのですけれども。

以上で報告事項等は終わりましたが、ここで何か各委員からご意見等ございましたら、よろしくお願いたします。

日高委員。

○日高委員 ここで聞くべきかどうかはわかりませんが、明日から学校経営プレゼンテーションが始まります。これはどこが主体で、誰がお聞きするのかということを確認しておいたほうがいいと思うのです。私たち教育委員としての立場というのは、聞き方が違うと思います。校長と対応されるときは、やはり指導室長なりがきちんとやっていただいたほうがいいのかと思いますけれども、どのようにお考えかちょっとお伺いしたいと思います。

○委員長 指導室長。

○指導室長 この学校経営プレゼンにつきましては、教育委員さん、それから教育長、次長、部長、指導室長も参加をさせていただきまして、各学校側から数分ですけれども、ブロックごとで基本的にはお集まりいただいております。先に数分ずつご説明をしていただいた後で、そのグループが全部終わった後で一括してそこで質問をしていただくような形になります。昨年度のやり方をとりあえず今年度もやらせていただこうかなと、そのように考えております。当

日は、塩尻統括指導主事が司会としてさせていただこうと考えてございます。

○日高委員 そうですか。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。それではよろしいですか。

続きまして、「その他」の事項に入らせていただきます。庶務課長お願いします。

○庶務課長 それでは、「その他」の案件について説明させていただきます。

本日、1の資料配付、2の出席依頼についてはございません。3の次回以降の教育委員会予定については裏面の記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして平成28年教育委員会第5回定例会を閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。

閉会時刻 11時05分